

全国協議会 ニュース

2022年2月1日発行 第354号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和（会長）
https://www.marow.or.jp E-Mail:office@marow.or.jp

佐藤きち子基金の患者助成継続のために クラウドファンディングスタート

全国協議会ニュース 2021年9月号
でお知らせしたとおり、佐藤きち子
記念造血細胞移植患者支援基金が
枯渇の危機に瀕しています。

これまで各方面の支援者にご寄付の
協力をお願いしてきました。多くの支
援者に事情をご理解、ご協力いた
だきましたが、コロナ禍の影響もあ
り厳しい状況が続いています。この
ままでは来年にも基金が枯渇して
必要な患者さんへの助成ができ
なくなる可能性があります。そこで、
レディフォーによるクラウドファン
ディングを実施し、広く社会に問
題を投げかけ寄付を募ることとし
ました。

クラウドファンディングは公開した
だけでは成功しません。多くの方
に見ていただくとともに、私たち
の活動趣旨にご理解、ご賛同いた
だく必要があります。

この紙面をご覧いただいている皆
さまには、ぜひともお知り合いの
方に今回のクラウドファンディング
を「拡散」していただきたいと思
います。基金継

続のため、患者さん支援のため、是非
ご協力ください！



クラウドファンディング概要

「白血病の患者さんに移植費用を届
けたい。きち子基金継続にご協力を！」

期間：2022年2月14日(月)～

2022年3月31日(木)(45日間)

目標金額：300万円

(佐藤きち子基金に充当します。約
半年分の資金になります。)

目的：

- ① 枯渇の危機に瀕している佐藤きち子
基金を継続させるため
- ② 白血病をはじめとした血液難病の患
者さんが実は意外に多い
ことを社会の皆さんに
知ってもらうため



絡で、移植日程を知らせる方式に変更
など」を開始しており、今回の補正予
算を有効に活用し、コーディネート業
務のシステム化、オンライン化によ
り、早期に迅速化されることが期待さ
れます。

今後、支援機関である日本赤十字社
での「ドナー登録情報の管理システム、
HLA 適合検索システム」などの更新
改修・機能改善が行われますが、シ
ステム更新は5～6年毎に行われるも
のです。是非とも今回の補正予算を
活用して、ドナー登録のオンライン
化、スワブ検査導入のための基盤整備
として、将来の導入に対応できるシ
ステム設計を取り入れることを願っ
ています。

令和4年度造血幹細胞移植対策政府予算案

(単位：万円)

骨髄移植対策事業費 (日本骨髄バンクへの運営補助金)	4億9300万円
骨髄データバンク登録費 (日本赤十字社への補助金)	6億3600万円
臍帯血移植対策事業費 (各地の臍帯血バンクへの補助金)	6億2000万円
移植患者・ドナー情報登録支援事業 (学会データセンターへの補助金)	7700万円
造血幹細胞提供支援機関事業 (日本赤十字社への運営補助金)	1億9200万円
造血幹細胞移植医療体制整備事業 (各地の拠点病院への運営補助金)	4億200万円

※令和2年度以降の政府予算は、ほぼ同額計上です。

国の国庫補助金、2年続けて大幅増額補正

国(厚生労働省)は造血幹細胞移植
対策事業の重要性を評価し、令和2年
度補正予算で「骨髄バンクのコーデ
ィネート支援システム」の更新改修・機
能改善(4億9000万円)、令和3年度
補正予算で「さい帯血情報公開シ
ステム、HLA検査システム、骨髄適合
検索システム」の更新改修・機能改善
(4億6000万円)、さらに「住所不明ド
ナー登録者解消対策」(2200万円)を
計上し、2カ年にわたり国庫補助金を大

増加しました。

骨髄バンクのコーディネート迅速化
については、これまでも移植医療機
関と当協議会も繰り返し要望してき
ています。昨年7月には「骨髄バンク、
主治医、コーディネーターの連絡方
法をオンライン化し迅速化する」こと
を具体的に提言要望しました。日本
骨髄バンクでは、昨夏に迅速化のワ
ーキンググループを設置して検討を
行い、既に「適合ドナー候補者へ
の最初の電話連

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

(MONTHLY JM DP(1月14日発行)より抜粋)

■日本骨髄バンクの現状(2021年12月末現在)

	11月	12月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,254	3,121	538,618	880,421
患者登録者数	216	206	1,744	63,344
移植例数	105 (22)	98 (28)	—	26,221 (1,455)

※()内は末梢血幹細胞移植の実施数(国際間含む)

■12月の区別別ドナー登録者数
献血ルーム/863人、献血併行型集団登録会/2,199人、
集団登録会/0人、その他/59人

■12月の年齢別ドナー登録者数(現在数)
10代 3,100人/20代 84,874人/30代 136,635人
40代 221,500人/50代 92,509人

■12月の20歳未満の登録者430人

■12月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計
数：1,406件(国内ドナー→国内患者)

注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

「佐藤きち子基金」と「患者さんの支援」を 継続するためにご支援を

全国協議会が移植患者さんの支援継続と、枯渇しかけている基金を積み増しするために、クラウドファンディングで資金を募ることになりました。今までも、基金が枯渇しかけたことは何度かありましたが、その都度、全国協議会からの呼びかけに応じていただいた全国のボランティアの皆様が中心となった寄付に支えられて患者さんへの給付が行われてきました。

私は、「佐藤きち子基金」の創設に当初より関わった者の一人として、基金と患者さんへの支援が継続されるよう強く訴えるものです。

思い出しますと、佐藤きち子さんとの出会いは、二女彩子の死後約4年後に三鷹市の教育委員会が主催し約1カ月間、三鷹市美術ギャラリーで「あやちゃんの贈り物展」を開催した時が最初です。この時、きち子さんは、自らもパステル画の勉強をされており、師事していた先生から出版されたばかりの「画集あやちゃんの贈り物」を手渡され、読まれたことがきっかけとされます。間もなくきち子さんより「この子の絵は訴えるものがあるから全国の皆さんに見てもらいなさい」と全国巡回するための寄付を受けました。きち子さんとお会いしたのは、連絡により



お金を受け取りに伺ったこの時が最初でした。その後、全国協議会の方針により、福島県のボランティアの皆様が額装を担い、全国を巡回することになったのは、この年の秋からでした。

きち子さんから再び連絡があったのは、約1年後のことでした。「骨髄移植ってお金かかるでしょう、もし、受けられない人がいたら、私が少し用意しようかしら」と。後日「お金用意したから取りに来なさいよ」と連絡があり、受け取りのため出向きましたが、私が到着した時、持病が急変した時でした。苦しい呼吸下で「詰所に預けておいたから頂いてきなさい」と絞り出すような声で私を促しました。その直後、救急車が到着し、きち子さんは病院へと搬送されました。私は、渡された小切手を握りしめたまま、タクシーに飛び乗り救急車を追いかけてきました。外来で診察した医師より「ボランティア関係の方、入ってください」と言われ、ストレッチャーに横になっているきち子さんと面会しました。顔を見てすぐに「佐藤さん、確かに頂きましたよ」と声をかけたとき、佐藤さんは、うん、うんというしぐさでうなずいた後、ICUに搬送されていきました。これがきち子さんとの最後のお別れとなりました。この2日後にきち子さんが入所していた施設より、訃報のお知らせがありました。

彩ちゃんときち子さん、2人は生前での交流はありませんでした。しかし、命がけで絵を描いた少女と、命が



あやちゃんの「すの中のバナナ」

けで患者さんを救おうとしたきち子さんとのコラボで生まれたのが「きち子基金」ではないかと思うのです。

これまでに「きち子基金」から給付を受けた方は少なくない人数に上ります。中には病気を克服して元気に社会復帰をしている方も多いのではないかと推測されます。私が忘れられないのは、給付の後で全国協議会に寄せられていた患者さんからのお礼の手紙です。中でも、ある地方のおばあちゃんからの手紙は、娘さんとお孫さんが同じ病気で亡くなり、闘病中に給付を受けたことへのお礼と、末尾に、一生かけて返済いたしますと綴られ、涙なくしては読み切れなかったことを思い出します。

病気の子後がどうであれ、全国の患者さんから感謝され頼りにされた「佐藤きち子基金」の存続は、患者さんにとっても、その家族にとっても希望の灯台となりうるものです。

私は、今回のクラウドファンディングを成功させていただき、きち子基金の灯を絶やさず、患者さんへの支援を続けていくよう、全国の皆様に切に訴えたいと思います。よろしく願い申し上げます。

(骨髄バンクを支援する東京の会
代表 三瓶和義)

岡山県内の登録会の様子

岡山県内での献血併行型登録会の設営については、チャンスはもちろん全て岡山県赤十字血液センターさんが用意してくださるので、私たち説明員は会場に手ぶらで参加する事ができます。また、ニュースなどの一式をあらかじめ袋に入れてくださるなど、いろいろ工夫していただいているので助かります。

また、採血時にすぐわかるよう、説

明を受けた人には写真(左)のストラップをかけてもらっています。そして、イオンの幸せの黄色いレシートキャンペーンで頂いた登録推進用の台所洗剤は全て血液センターさんに預けておき、その都度適量を持ってきていただいています。

このような対応をしてくださるおかげで、自転車や公共交通機関などで参加



する説明員も負担無く参加出来ます。血液センターさんには大変お世話になっております。

(岡山骨髄バンクを支援する会
原田早苗)

大谷副会長 東ちづるさんの番組に出演 30年の交流を語る！

骨髄バンクの啓発活動に30年近く一緒に活動して下さっている東ちづるさんにお声がけいただきネット番組(詳細後述)に出演しました。お互い還暦を迎え、「よくよく考えてみると人生の半分、一緒にいるんだねえ」と、そんな話から始まりました。

骨髄バンクの啓発活動であちこちに旅をした珍道中の話。笑えること、怒ること、悲しむこと、考えさせられること、本当にたくさん共有してきました。

東さんが骨髄バンクを知るきっかけになった患者さんのお話。そして、骨髄バンク運動がきっかけになり、様々



なボランティア活動をされた東さん。今はGet in touchの活動をされ、東京五輪・パラリンピック大会の公式文化プログラム「東京2020NIPPONフェスティバル」の映像作品「MAZEKOZE アイランドツアー」の総合構成・演出・総指揮を手がけられたのは記憶に新し

いと思います。

2週にわたって、2人のトークが公開されます。話は、あっちに飛び、こっちに飛び、で2人が2人で楽しんでトークになりました。ぜひ、ご覧ください。

(全国協議会副会長 大谷貴子)

「東ちづるのLet's MAZEKOZE」

- 鳥越アズーリFM(インターネットTV型ラジオ)で毎週水曜日12時から放映中
- “アーカイブ配信”として過去の放送が見られます。
- 大谷副会長の登場回は1月26日(水)と2月2日(水)です。

「東ちづるのLet's MAZEKOZE」
<https://www.letsmazekeze.com/>



プルデンシャル生命保険(株) の支社で講演

12月23日(木)、新幹線が行きかう新大阪駅の隣にあるプルデンシャル生命保険株式会社 京阪第二支社 第三営業所に、関西骨髄バンク推進協会事務局から説明員赤木晴香、全国協議会理事浅野祐子、大阪府赤十字血液センター職員が伺い献血・骨髄バンクドナー登録の普及啓発のために社員の方へお話をいたしました。プルデンシャル生命といえば全国協議会の患者支援基金へのご寄付と、社員の方による箱根駅伝での骨髄バンクのノボリを立てて沿道応援で長年ご支援いただいています。

皆様にはわかりにくい、「日本骨髄バンク」「全国骨髄バンク推進連絡協議会」「各地ボランティア団体」の役割と骨髄バンク事業の問題点をお話ししました。また、患者体験と、保険会社の方が一番聞きたい闘病にかかる費用についても。長い人生、思いもよらぬ病気や災難は誰にも起こり得ること。血液難病の患者さんには「1人でも多くのドナーを増やす活動」「安心してドナーが骨髄提供できる環境・助成」「長い闘病への手厚い保険給付金」「病気後の人生に希望が持てる卵子・精子保存のための費用助成基金」が助けになることをお話するとともに、お礼をお伝えしました。(全国協議会理事 浅野祐子)

知ろう。一緒に、 『AYA week 2022』開催



昨年に引き続き、『AYA week』が開催されます。AYA世代のがん・がん患者さんの抱える問題を広く知っていただき、AYA世代のがん患者さんにとって生きやすい社会を作るために何ができるかを考え、交流を行うイベ

ントが全国各地で多数開催されますので是非ご参加ください。

イベント情報など詳しくは以下のWEBサイトをご覧ください。

『AYA week 2022』

会期：2022年3月5日(土)～
3月13日(日)

主催：一般社団法人

AYA がんの医療と支援のあり
方研究会

WEBサイト：<https://ayaweek.jp/2022/>

※ AYA世代とは Adolescent and Young Adult = 思春期・若年成人を表し15歳から30歳代とされます。就学・就労・恋愛・出産・育児など多数のライフイベントを経験する時期です。

海部俊樹元総理を偲んで

1月9日(日)、海部俊樹元総理大臣が91歳で逝去されました。そのファーストレディー海部幸世夫人は、骨髄バンクの発足から成長期に全国協議会の初代会長を担われ、各省庁や企業などへの陳情や協力要請のため精力的に行動されましたが、常に元会長はご主人にご助言を求め、適切なアドバイスと影ながらのご支援が骨髄バンクの躍動と前進に大きく貢献されました。写真は1999年10月に開催された骨髄バンクチャリティーゴルフ第2回「勘九郎杯」でのスナップです。先立たれた中村勘三郎さんはこのときはまだ勘九郎さんでしたが、海部元総理は勘九郎後援会の会長でもありました。骨髄バンクにとってかけがえのない元総理のご冥福をお祈り申し上げます。



(全国協議会副会長 野村正満)

各地のたより  各地のたよりを写真添えてお寄せください。

兵庫

骨髄バンク支援 Christmas Concert 2021
～第5回 播磨地区 高校生バンドコンテスト～

昨年12月26日(日)「イーグレひめじ あいめっせホール」にて主催：姫路地区骨髄バンク推進センター、共催：全国骨髄バンク推進連絡協議会で開催いたしました。



6校の高校が参加し、日ごろ練習してきた成果を競い合い、思う存分演奏いたしました。

まだまだ、一般の観客の皆様に入場していただけないのがとても残念でしたが、思い切り歌ったり、演奏している若者を見ていると、とても元気ももらいます。演奏のあと、130名ほどの高校生に骨髄バンクのPR動画をみてもらい、また、ドナー登録の協力のため、チャンスも配布いたしました。

生徒さんたちに、このような機会でも骨髄バンクについて知ってもらえたことは大変良かったと思っております。そして、音楽の楽しさも同様に感じてもらえたと思います。

今回は、姫路市・国際ソロプチミスト姫路・姫路さくらライオンズクラブ・姫路西ロータリークラブ・神戸新聞社(敬称略)の他、多くの企業様のご協力で開催できました。

今年も、12月25日(日)「アクリエひめじ」での開催を予定しております。

(姫路地区骨髄バンク推進センター 濱田恵子)

山形

骨髄バンク事業を少しでも多くの方へ



令和2年春、山形県内初の新型コロナウイルス感染症の陽性者が確認されてから早2年という歳月が過ぎようとしています。

骨髄バンク普及事業もコロナ禍の影響を大きく受け、保健所が主催している献血併行型骨髄バンクドナー登録会でも登録者数が減少し、新規登録者の確保がこれまで以上に困難な状況になりました。

その中で、少しでも多くの方に骨髄バンク事業について知ってもらい、骨髄バンクをより身近なものとして考えてほしいという思いから、令和3年11月26日(金)山形学院高等学校にて看護・医療技術コースの一年生を対象に、骨髄バンクセミナーを開催しました。

セミナーでは骨髄バンクを支援するやまがたの会会長 小野寺南波子氏が骨髄移植に関する基礎知識や骨髄移植希望者に対する骨髄バンク登録者数の現状及び登録方法等について息子さんの体験談を交えながら説明されました。

学生たちの講義内容に対する熱心な姿勢に、セミナーの開催が骨髄バンクを知る一つのきっかけになったと強く実感しています。

当セミナーで学生自身が学んだ知識やその時芽生えた思いが数年後の骨髄バンクドナー登録につながるかもしれない。大きな期待を胸に、これからも高校生や大学生など若い方々に向けた骨髄バンクセミナーを開催し、新規登録者の確保につなげていきたいと思えます。

(山形県村山保健所医薬事室 茅田野洋介)

基金給付を受けた方からのメッセージ

佐藤きち子記念 造血細胞移植患者支援基金

佐藤きち子基金の助成金、本当にありがとうございます。白血病・抗がん剤治療・造血幹細胞移植と本人はもちろん、家族共にとってもつらい出来事でした。本人が若いという事もあり白血

病になってしまうなど考えた事もなくがん保険などに加入していませんでした。本当に目の前が真っ暗になりました。

知人から佐藤きち子基金の事を教えてもらい、すぐに調べ申請させていただきました。本当に助けられました。ありがとうございます。大切に使用させていただきます。

(中国地方在住 患者さんのお母さん)

志村大輔基金 (分子標的薬支援)

私は8年前からの悪性リンパ腫が再発してしまい、もともとパニック障害という病があり年金生活という事もある生活での不安、家族への思いなど色々不安と心配で仕方ありませんでしたが、今回支援して下さる事となり本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

(北海道地方在住 患者さん本人)

心からのご寄付に感謝申し上げます ●12月21日～1月20日(敬称略)

<p>●一般</p> <p>二階堂瑠美と愉快的仲間たち feat. ちーぼー 現金 50,000円</p> <p>三井化学株式会社 ちびつとワンコイン 現金 200,000円</p> <p>三井化学株式会社 現金 200,000円</p> <p>株式会社エアネット 現金 558,300円</p> <p>ダブルエスタイガー 現金 30,000円</p> <p>塩谷 泰人 現金 1,000円</p> <p>匿名 現金 3,000円</p> <p>●佐藤きち子造血細胞移植患者支援基金</p> <p>東京港南マリーナーロータリークラブ 現金 81,218円</p> <p>公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 現金 15,631円</p>	<p>●志村大輔基金</p> <p>築瀬 知雅子 現金 5,000円</p> <p>庄子 敏子 現金 5,000円</p> <p>●このとりのマリン基金</p> <p>東京港南マリーナーロータリークラブ 現金 100,000円</p> <p>●募金箱</p> <p>株式会社クスリのアオキ 現金 761,863円</p> <p>株式会社マルト商事 現金 82,709円</p> <p>株式会社フクヤ 現金 3,698円</p> <p>株式会社ナルクス 現金 4,638円</p> <p>株式会社ナルクス 現金 3,968円</p> <p>Y's BODY CLUB 現金 4,298円</p>	<p>やすだボディメンテナンス 現金 4,370円</p> <p>株式会社レンプラントホテルマネジメント レンプラントホテル東京町田 現金 6,030円</p> <p>岡本屋永吉商店 現金 6,025円</p> <p>巣鴨クリニック 現金 3,695円</p> <p>巣鴨かみむら薬局 現金 6,431円</p> <p>学際企画株式会社 現金 5,797円</p> <p>有限会社スバゴ 現金 2,311円</p> <p>山本 智子 現金 1,476円</p> <p>●つながる募金 現金 15,500円</p> <p>●キモチと。 現金 5,810円</p>
---	--	--

活動資金の支援をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655 郵便振替口座 00150-4-15754

口座名：特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会